



日誌

手用

昭和一八六一九

電	報	九	一	一	一	一	一
		一	九	九	六	八	
		一	〇	〇	〇	二	
		三	三	〇	三	三	
		〇	二	三	〇		
		〇	〇	三	〇		
		〇	受	著	發		

岡 部 隊 總 參 謀 長

通電先 次長 次官 森 義

南參二電第一四二三號

一 領土編入ニ關スル日泰間現地細目協定ハ昭南ニ於テ南方軍稻田

總參謀副長 泰國軍代表「チャイ」少將ノ間ニ平十八日十五時

調印ヲ了セリ

（内容南參二電第一三一五號ノ通 森集團ニハ文書空送ス）

ニ本協定ノ署名ニ當リ左記議事録ヲ作製セリ

237

0806

左記

日本南方軍代表及泰國軍代表ハ「マライ」四州及「シヤン」
二州ノ編入ニ關スル日本南方軍代表及泰國軍代表間編目協定」
ニ署名スルニ當リ協議ノ結果左ノ如ク諒解成立セルコトヲ確認
セリ

左記

一 交換公文四ノ(イ)及(ロ)ノ事業ニ對シテハ戰爭期間中課税ヲ行ハ
ザルモノトス

但シ此等事業ノ經營ニ件ヒ泰國側ノ負擔トナルベキ經費ニ對
シテハ日本側ニ於テ別途考慮スルモノトス

ニ交換公文四ノ(ロ)ノ事業開發ノ場合ニ於テ日本側ハ泰國側ト事前ニ緊密ニ連絡スルモノトス

ニ警察隊ノ行フ匪賊討伐及犯人逮捕等ニ際シ追躡ノ爲相互ニ國境ヲ越エルコトアルヲ認ム且此ノ際爲シ得ル限り速カニ關係官憲ニ通告シ相互ニ緊密ニ協力ヲ行フモノトス

四日本側ヨリ泰國側ニ對シ左ノ如ク要望シ泰國側ハ之ガ實行ヲ確約セリ

(1)食糧ノ増産及「マライ」ヘノ供給量ノ確保ニ關シテハ爲シ得ル限り努力スルト共ニ「ケダ」州ニ於ケル日本側米穀集貨擔當商社ニ對シ便宜ヲ供與セラレ度

(2)東部線ノ軌條撤收後「グアムサン」以外ノ自動車道路ハ移管後

成ルベク速カニ泰國側ニ於テ完成セラレ度

(3) 既決囚ハ之ヲ其ノ儘泰側ニ於テ引繼ガレ度[?]

(4) 「マーカシスタイル」「チマイタード」及「番上」三銀行ノ四支[?]
店ノ清算ニ關シテハ現状ニ於テ泰側ニ之ヲ引繼ギ處理セラレ度

(5) 庶民金融資金及復舊資金ニ關スル債權債務ハ泰側ニ於テ引繼ガ
レ度

(6) 行政終止ノ時期ニ於ケル各州歳入出決算ハ日本側ニ於テ之ヲ行
フ不足額ハ之ヲ補填ス

(7) 民間拂下ノ爲米 鹽 砂糖及阿片ノ殘部竝ニ之ニ伴フ州ノ債務
ハ泰側ニ於テ引繼ガレ度

(9) 馬來四州及「モンパン」州内ニ既住ノ日本人ニ對シテハ該州
居住ノ爲入國稅ヲ免ゼラレ度

(9) 「マライ」四州及「モンパン」州ニ於ケル日本側經營ノ事業
ニ必要ナル燃料脂油類ハ日本軍ヨリ交付スルニ付承知アリ度

(10) 「マライ」ニ於テ現ニ日本側ガ經營中ノ日本語學校ハ引續キ
日本側ニテ經營シ度ニ付便宜與ヘラレ度

(11) 敵産トシテ泰國側ニ移管スル自動車ハ「マライ」四州ノ行政
竝ニ産業上ヨリ必要ニ基クモノナルヲ以テ他ノ地域ニ搬出セ
ザル様ニ努メラレ度

(12) 「モンパン」州ニ於ケル「チーク」材ハ現ニ日本側ニ於テ敵
産トシテ管理シアルモノ及本年度計畫ニ於テ既ニ伐木ヲ決定

シアルモノハ泰國側ニ移管セザルヲ以テ編入後ト雖モ泰國ハ
其ノ伐木及搬出ヲ認メラレ度

昭和十八年九月十八日即チ佛歴二四八六年九月十八日昭南ニ於テ

日本南方軍代表 泰國軍代表

(終)

242

0811

第二課

日誌用

機密

電

報

九	二	四
一	〇	〇
一	六	二
二	二	三
四	〇	五

點受著發

岡部陸軍參謀長

通電先

次長 支總 剛 富 治 堅 信 義 灘 第三船隊 海軍

南參一電第三四二號

印度方面ノ戰況第二號

要旨

敵ノ總反攻陣容ハ既ニ陸正面ニ於テハ進捗見ルベキモノアルモ
 軍力未ダ十分ナラザルモノノ如シ 然レドモ今次伊副作戰ノ成功
 八地中海艦隊ノ東亞回航ノ公算ヲ決定的ナラシムベシ

昭和一八六二四

243

0812

印緬國境ハ概ネ平穩ナルモ後方ニ於ケル兵力ノ交代增強、軍需資
材ノ集積ハ著々進歩シアルモノノ如シ本年ハ既ニ雨期明ケトナリ
本格的乾期ハ概ネ十月上旬到來スルモノト判断ス

二 北部國境

密偵報ニ依レバ「フオートヘルツ」ヨ「ゴルカ」兵ヲ空輸シアル
モノノ如シ在印重慶軍ノ總兵力ハ三萬八千名ナリ

三 中部國境

概ネ平穩ナルモ逐次兵力ヲ推進スルト共ニ道路ノ補修、渡河資材
ノ收集ニ努メツツアルモノノ如シ

四 南部國境

「ルドウ」―「ブチドン」正面ノ敵兵力ハ二萬七千ニシテ偵察ヲ
續行シツツ再反攻ヲ喧傳シアリ「ナーフ」半島ニ對スル兵力増強
及第二六師團司令部進出說「ナーフ」河附近艦船ノ行動活潑等攪
亂的風説流布（V部隊）ト相俟ツテ敵ハ企圖ノ偽瞞ニ努メツツア
ルモノノ如ク反攻時期逼迫ニ連レ其ノ攻撃方向ハ嚴ニ警戒ヲ要ス
ルモノアリ

五「ア」「ニ」諸島「スマトラ」ニ對スル敵機ノ來襲ハ天候不良ノ
爲ト思ハルルモ激減セリ

六 南部印度及「セイロン」方面

九月上旬當方面ハ東阿弗利加軍ヲ増強セラレタルモノノ如シ諸情
報ヲ綜合スルニ敵ハ依然兵力ノ増強ヲ繼續シアルモノノ如ク九月

十九日海軍飛行艇ノ實施セル「コロロンボ」夜間偵察ニ依レバ港内
ニ大巡洋艦一、輕巡洋艦二―三、驅逐艦五、輸送船大型八、中小
型約一〇隻在リ

(終)

0815

軍機

極秘 續歴

日誌用

電報 次長宛
南參電第八八八號

昭和十八年一月九日
一〇、一八、三三、〇〇、五發
〇、三、四〇、七著
〇、一、三〇、〇受
岡部隊總參謀長

電作戦準備急速設定上之が基準タルベキ該方面ノ
作戦構想ニ關シ當方トシテハ一應左ノ如キ腹案ヲ
有シアルモ御高見アラバ至急御教示煩ハシ度
一、濠北正面全般ニ就テ
完全ニ印度洋ノ分断ヲ企圖シ來攻スル敵ニ對シ
徹底的反撃ヲ加ヘ努メテ事前ニ之ヲ覆滅シ
其ノ戰意ヲ挫折セシムルト共ニ爾後ニ於ケル積

極作戦ノ根據ヲラシムル爲¹子モル¹スンバ¹ヲ核心
トスル小¹スダン¹地區龜ヲ核心トスル西北部¹ニ
ユ¹ギニヤ¹周邊地區ヲ前線據點トシ春¹セレブス¹
ニ互ル縦深ニ一火支撐ヲ造成ス

重點ヲ西北部¹ニユ¹ギニヤ¹地區ニ保有シ太平洋
方面ト濠北方面トノ敵戦力ノ合一ヲ阻止ス

之ガ爲海軍ト協同シ當面ノ防衛ニ遺憾ナカラシ
メツツ先ヅ龜地區ノ作戦準備ヲ速急ニ強化ス

ニ龜地區ニ就テ

(1)方針

重點ヲ¹マンベラ¹モ¹河畔及¹ヘルウイン¹ヲ灣周
邊地區ニ保持シ速カニ反撃作戦ノ支撐ヲ¹完成
シ來攻スル敵ニ對シ徹底的反撃ヲ加ヘテ¹奪

滅ス

(2) 指導要領

(イ) マ^レ河右岸ヨリウ^レ湖高原ヲ經テ^レミミカ^レ地區ニ互ル線全線トシ其ノ以西地區ニ於テ縱深ニ互ル據點ヲ構成ス

(ロ) 據點ハ^レマ^レ河右岸(約四大隊) ^レピア^ク ^レヤ^ン ^レスボ^ア ^レアイ^レ 地區(約二大) ^レマ^ク ^レワ^リ ^レヌ^ン ^レホルム^ミ ^レ地區(約三大) ^レミ^ミ ^レカ^レ 地區(約二大)トシ先ヅ^レマ^レ河地區ヲ速急ニ強化ス

右ノ外成ルベク速カニ一部ヲ以テ^レウ^レ湖群ヲ台領ス

(ハ) 敵ノ來攻ニ當リテハ海軍ト協力前項據點ヲ支撐トシ各種ノ戰力ヲ集中シテ之ヲ反撃ニ努メ

テ事前ニ敵ヲ覆滅シ其ノ反攻企圖ヲ擊碎ス
(二) 我ガ態勢未完ニ乘ジ敵ノ來攻ヲ受ケタル場合
ニアリテハ當時ノ狀況ニ依ルモ前方據點ヲ確
保シツツ此ノ間各種ノ戰力ヲ集中シテ之ヲ
反撃スルニ努メ止ムヲ得ザルモ「ベール」シテ
灣周邊地區ヲ確保ス

三 兵力部署ノ大要

- (一) 第三十六師團ハ一三五度ノ線以東北岸地區
及「ヒヤク」島、「ヤーパーン」島トナルベク當初一
部ヲ「ウ」湖畔ニ配置ス
- (二) 飛行第三戰隊ハ前項以外前線西北部「ニエー」キ
ニヤレ「ハ」ミミカヲ含ム
- (三) 各據點ノ兵力部署ノ腹案ハ既述ノ如キモ現

地ノ實情ニ應ジ更ニ變化アルモノトス

(4) カ¹甲部隊ハソロン^レ春、¹アンボン^レ地區ヲ
基地トシテ訓練セシメ狀況ヲ推移ニ應ジ機

動根據ニ推進ス

追ッテ作戰準備ニ關スル命令ハ本件ニ對スル
中英ノ御高見ト現地ニ於ケル派遣班及堅トノ
打合セ等ヲ待子二十四、五日頃下令セララル豫
定ナリ

(終)



極秘

機

保管

電報

昭和二十一年八月二十一日
一八四五號
一〇三三
一九四〇點

昭和二十一年八月二十一日

次長宛

岡部隊總參謀長

南支一電第二十〇六號

龜地區作戰支撐ノ構成ニ當リ「ポーランドイア」ニ有力ナル前進陣地ノ
 推進ハ全般態勢就中南東方面作戰ノ推移ニ即應スル爲極メテ肝要ナリト
 信ジアル所該地區ハ當軍ノ作戰地境外ニシテ今次大陸命ニ依ルモ亦然
 剛ノ作戰地域内ニ在リ 當方ガ積極的ニ任務達成又ハ協力スル爲特ニ作
 戦上之ヲ絶對トスル場合ニアリテハ固ヨリ作戰地境ニ捉ハルルノ要ナシ
 ト存ズルモ本件ハ恰モ剛ノ爲收容陣地ヲ設定スルガ如キ關係トモナリ
 皇軍ノ傳統特ニ武士道の見地ヨリシテモ心苦シキ點アリ
 就テハ此ノ點何等カ中央ニ於テ特ニ處置セラレバ幸甚ナルモ貴意至急
 承リ度

(終) 252 急

0821

極

第三本
軍機秘親展

白紙用

電報

昭和
一八〇一
一八〇二

總長宛

岡部隊長

一三二二
一一一
五四四三
一四〇四
〇〇〇〇
吳受著發

南參一電第二〇七號

南總作命甲第四〇八號別紙

濠北方面作戰準備要綱

一、濠北方面ニ於ケル向後ノ作戰準備ハ大平洋印度

洋ノ分断ヲ策シ來攻スル敵ニ對シ徹底的反撃ヲ

加ヘテ其ノ反攻企圖ヲ撃擯スルト共ニ爾後ノ積極

作戦ノ根據タラシムル如ク海軍ト協同シ速カニ「
レス」海「¹」バンド海周邊地區及西北部「¹」ニューギニヤ
周邊地區ニ反撃作戦ノ支撐ヲ完成スルヲ目的
トス右支撐構成ニ當リテハ特ニ重點ヲ西北部
「¹」ニューギニヤ地區ニ保持シ太平洋方面ト北部濠洲
周邊ノ地區ニ於ケル敵戦力ノ合一ヲ阻止ス
ニ前項ノ爲概ネ昭和十九年春頃概成同年中期
頃完成ヲ目途トシ前項要域ニ於ケル基地整備
防備強化軍需品集積海運兵站根據ノ造成等

作戦準備ヲ速急ニ強化ス

三、右作戦準備ハ當面防衛ニ遺憾ナカラシメツツ特ニ

南東方面作戦推移ニ應ジ反撃作戦ノ支撐タラ

シメル如ク之が促進ヲ期ス之が爲先ズ速カニ西北部

「ニューギニア」地區ニ於ケル作戦準備ヲ強化促進ス

四、作戦企圖ノ秘匿ニ關シテハ特ニ嚴密ナル注意ヲ

要ス

同杉

録

日誌用

電報

一九二九發
一九四〇著

一六〇〇受
一七一〇點

岡部隊長

迎館先 總長堅 治 難 船司

南參一電第二〇四號

南總作命甲第四〇八號要旨

一大命ニ依リ濠北方面ニ於ケル反擊作戦準備ヲ速カニ強化促進セ
ントス

右作戦準備ノ爲大本營ハ關係幕僚以下ヲ派遣シ派遣間等ノ指揮
ヲ又總參謀長ハ船舶司令官ヲシテ其ノ戰闘司令所ヲ南方ニ推進
シ予ノ區處ヲ受ケシメラル

ニ第十九軍司令官ハ別紙「濠北方面作戦準備要綱」ニ準據シ其ノ
作戦準備ヲ強化促進スベシ

大本營派遣員（總派遣員）ヲ派遣間其ノ指揮ニ入ラシム
ニ第十六軍司令官、第三航空軍司令官、「ボルネオ」守備軍司令
官ハ前項作戦準備ヲ援助スベシ

四 船舶司令官ハ豫北方面ニ對スル船舶輸送ヲ統制スルト共ニ海運地ノ設定ニ關シ第十九軍司令官ヲ援助スベシ

右實施ニ關シ第三船舶輸送隊長ヲ區處スベシ

共 第三船舶輸送隊長ハ第一項作戰準備ノ爲所要ノ輸送ヲ擔任スベシ又南總作命甲第三四六號ノ部隊ヲ十一月五日零時ニ於テ第十九軍司令官ノ指揮下ニ復歸セシムベシ

總參謀長指示

一 龍派遣員ヲ派遣スルノ目的ハ豫北方面ノ作戰準備ノ援助並ニ之ニ關スル南方軍（第十九軍）ト大本營トノ連絡ヲ緊密ナラシムルニアリ

派遣期間ハ約二箇月ト豫定セララル

二 船舶戰團司令所推進期間ハ約二箇月ト豫定セララル

257

0826

三 船舶司令官ノ第三船舶輸送隊長ニ對スル區處ノ内輸送統制ハ主ト
 シテ「ソロン」マノクワリ「ハルマヘラ」地區ニ對スル一貫
 船ト横ニリ船ノ運航ヲ調整スルト共ニ「マノクワリ」「ソロン」
 地區ニ對スル大型船ノ突入輸送竝ニ海軍及該方面ノ兵力ヲ以テス
 ル之ガ掩護ニ關シ統制シ以テ船團廻轉率ヲ向上スルト共ニ船舶ノ
 損耗ヲ防止スルヲ主眼トス
 又海運地設定ニ關シテハ所要ニ應ジ第三船舶輸送隊長ノ意（指揮）
 下部隊ヲ適宜派遣シ得ベシト雖モ之ガ爲相互輸送ノ實施ヲ妨グル
 コトナシ
 四 作戰ノ企圖秘匿ノ爲次ノ如ク呼稱ス
 濠北方面作戰（作戰準備）ヲ三號作戰（作戰準備）西北部「ニユ
 トギニヤ」地區關係ヲ龜作戰（作戰準備）「ハルマヘラ」地區作
 戰準備ヲ春作戰準備ト呼稱ス
 （終）

極秘至急親展

第二課

日誌用

電報

次長宛

南參電第四〇二號

昭和十八年十一月一日
二〇時五十分發
二〇時三十分發

岡部隊總參謀長

第一部長へ 近藤中佐ヨリ

(第八報)

緬甸方面作戰準備ノ概況

一、少號作戰ノ準備ハ概木順調ニ進捗中ニシテ現

況並ニ今後ノ豫想左ノ如シ

(1) 各兵團ハ概木戰略展開ヲ終リ情報ヲ收集シ

築城施設ノ増強並ニ交通路ノ整備等ニ任シ

了リ
但シ奈兵團主力ノ展開ハ二月ニ入ル見込ナ
リ

260

(四) 軍需品ノ集積狀況(計畫ニ對スル比率)左ノ

如シ 括弧内ハ計畫量トス

彈藥 (各師團半會戰分) 約五〇%

糧秣 (三箇月分) 約四〇%

燃料 (一兵〇〇水) 約六〇%

航空用燃彈共

集積ヲ困難且遲延セシメアル主ナル原因ハ

鐵道空襲ニ依リ動脈硬化ト北緬甸作戰地域

内水年ノ米穀不足トニ在リ

集積ノ完成ハ明年一月一杯ヲ要スベキモ隨

0829

時ノ作戰即應ニハ支障ナシ

(ハ) 交通網ノ整備状況

インドウーホマリノ道ハ一月末

子エンマイトング道ハ一月上旬

ケンタンーダウング道ハ十二月上旬

何レモ自動車道トシテ完成ノ豫定

空襲ニ依ル鐵道輸送ノ能力低下ハ豫想以

上ニシテマングレノ本線ノ十月末ノ軍需

品輸送実績ハ二五〇吨(日量)ニ過ギス

方面軍ハ鐵道兵力ノ増強ト相俟ツテ有工

ル工夫ヲ凝シテ輸送能率向上ニ努力中ナ

リ

(ニ) 兵團戦力充實状況

各兵團ハニ割ノ事前補充ノ外兵補三千内
外ヲ保有シ人的戦力ハ充實シ之ガ装備モ
祭兵團ノ山砲ガ充足セラレザル外ハ概木
所要ノ域ニ達シアリ
軍司令部ハ森林内ニ疎散シテ決戦態勢ニ
入り司令官以下將兵ノ志氣烈々タルモノ
アリ
(ホ)全般トシテ作戦準備ノ概成ハ二月末ト判
断セララルモ「我既ニ勝テリ」ノ感深シ
ニ海岸正面ヲ作戦準備ハ「兵」ノ進出ニ依リ
一應ノ形態ハ整ヒタルモ「アキヤブ」方面ハ遅
々トシテ進マズ「アキヤブ」トシテモ目下最
大ノ危機ニ直面シアリト稱スベキカ?

252

0831

即子楯ノ缺員補充及舊南海支隊ノ到着ハ年
末ニ互ルベク現在歩兵大隊ノ兵數ハ四一五
〇〇ニ過ギズ

軍需品ノ集積モ亦今後ニ俟ツノ狀況ニ在リ
唯從來ノ豫想ニ反シ相當量ノ主食が現地自
給ノ途立テルハ幸ナリ

アキヤブノ弱點ハ實ニ海上輸送依存ニアリ
之ガ爲陸上補給路ノ設定ニ關シテハ森及楯
トシテハ特ニ努力シアル所ナルモ當面緊急
ノ問題ハ舟艇增強ト之ガ決戦力強化トニ存
ス

三 航空作戦準備狀況

(1) 緬甸ニ在ル飛行場既ニ一〇五ヲ數ヘ東部

印度ニ於ケル敵ノ夫ト伯仲シアリ點大ナル強味ナリ

(四) 燃彈ノ集積モ亦完成シ明年五月頃迄ノ支
持可能ナリ唯機關砲彈ノ不足、對艦船用
海軍爆彈集積ナキハ遺憾ナリ

(八) 師團ハ地上作戰即應ヲ第一義トシ少虜作
戰時又ハ海正面ニ對シ隨時最大ノ戰力發
揮ニ遺憾ナカラシメンストニ留意シ目下
ハ戰鬥隊主力及偵察隊ヲ緬甸ニ置キテ遊
撃態勢ニアラシメ爾餘ハ泰、馬來ニ於テ
訓練中ナリ
此ノ間好機ヲ求メテスル短切ナル進攻ヲ
企圖シアリ

四、以上ノ作戰準備ニ關聯シ現地側ノ要望ハ總
軍ト連絡ノ上別ニ報告ス

(終)

第二

極秘至

電報

通電先 馬尼刺

參考 次長 輝

南參二電第三二二號

大本營運絡班長ニ傳ラレ度

馬尼刺會議ニ於テ要求セラレタル燃料供出量（航空彈發油一萬

五千立方米、自動車揮發油七千立方米、舟艇燃料五千立方米）

中「タンカー」ニ依ル比島經由ノ龜向ケ補給量ヲ至急返アリ度

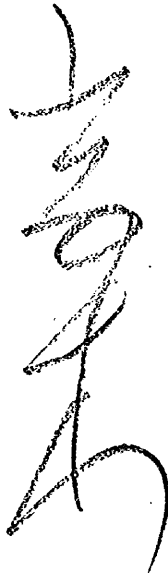
尙比島向ケ輸送ハ運船電第四一五號（十一月以降比島向石油輸

送計畫ノ件）同第四五三號（十一月以降比島向重油輸送ノ件）

11月18日發 11月20日受付
11月21日著 11月23日點檢

昭和十八、一一、二七

岡 部 隊 總 參 謀 長



ニ依リ三月末迄「タンカー」ヲ以テ航空揮發油二萬五千五百
斤、自動車揮發油二萬六千斤、舟艇燃料一萬二千斤ト定メラレ
アリ 念ノ爲

(終)

257

0836